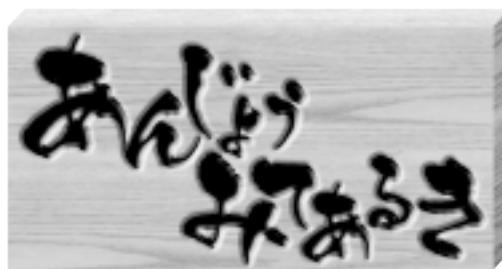




その24

いがまんじゅうとおこしもの



3月3日は桃の節句^{せうく}。各家庭では、ひなまつりが行われる日です。ひなまつりの主役といえはひな人形ですが、この地方には「いがまんじゅう」と「おこしもの」という名脇役がいます。いがまんじゅうは、丸いおまんじゅうの上に着色したもち米を載せたお菓子です。ひなまつりになると当たり前のようにひな人形に供えられ、そして食べられています。しかし意外なことにこうした風習があるのは、三河南部の地域に限られます。こんな話があります。終戦直後のこ



いがまんじゅう(上)とおこしもの(下)



と、あるまんじゅう屋さんが、いがまんじゅうを名古屋で売ろうと思いい、大量に持って出かけました。しかし、それを見た名古屋の人たちは「何だこれは？」という冷たい反応。得^え体の知れないものとして扱われてしまい、全く売れなかったそうです。一方のおこしものもこの地方独特のもので、米の粉を練ったものを型に入れ、蒸して作ります。いろいろな形の型があるので、作るのにも食べるのにも楽しみがあります。今ではスーパーでも売っているいが

まんじゅうとおこしもの。しかし、昔は売っている店などありませんでした。どこの家でも自分たちで作っていたのです。このほか端午^{たんご}の節句のかしわもちも自分たちで作りました。さて、いがまんじゅうもおこしものも、それぞれ赤・緑・黄の三色で着色されています。この色には意味があります。太陽の赤、萌^もえたつ緑、そして黄は稲穂、すなわち収穫の喜びを表しているのです。

今月の案内人
高棚町 石川愛子^{あいこ}さん



ミュージアムスポット「雛^{ひな}のみやび」展示中
(3月26日(日)まで)

歴史博物館では、同館の所蔵する主に明治から昭和初期にかけての様々なひな人形やひなまつりに関する絵画資料を展示中です。ぜひご覧ください。